（様式3）　　平成　24　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1270400821		
法人名	有限会社ケアライフ武上		
事業所名	グループホームノーマライ心の花御成		
所在地	千葉市若葉区下田町1263－56		
自己評価作成日	平成24年11月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	ユニトレンド株式会社
所在地	千葉県柏市中央 2-9-16
訪問調査日	平成25年1月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ホーム名の由来である、ノーマライゼーションの理念の基、障害（認知症）があっても、職員が、常に入居者の側で共に暮らし、サポートする事により、人として普通に生活していけると考え、実践している。そして、入居者の方々、それぞれの世界に、そっと寄り添いながら、入居者の立場に立って援助するようにし、穏かな日々を送っていただいている。また、希望があれば、看取りを実施しており、開設から、8年半になるが、6名の方を見送っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

ホームの理念、「明るく楽しく笑顔で共にくらす。そして人として心に花を咲かそう。」を全職員が正しく理解し、入居者に笑顔をもたらすために、一日一回は笑ってもらうことを目標にしている職員もいる。
介護職員の他に短時間勤務の調理・入浴・清掃の専門職員を配置し、放置される入が居ないよう配慮して、高齢化・重度化している入居者一人ひとりへの対応の充実を実践している。
代表者の長年にわたる認知症ケアの経験・実績に基づく豊富な知識と技術によるOJTが、必要な場面で適切に展開され、職員の知識と技術の向上につながっている。毎月、全入居者についてのカンファレンスを開催し、問題点・課題が提起され、対応策及び対応方法が話し合われ、全職員が共通認識のもとで介護・介助に取り組んでいる。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るく楽しく笑顔でともに暮らす。そして、人として心に花を咲かそう」を理念に掲げ、毎月のカンファレンスや日々の業務の中で、管理者と職員は、その理念を共有し、実践している。	全職員が理念を認識し、言葉使いに配慮しながら明るく笑顔で対応している。“笑顔になってもらうために、心に花を咲かせるために、一日一回は笑ってもらうこと”を目標に介護に取り組んでいる職員がいる等、全職員により理念が具現化されている。	理念を具現化するために、現在実践されている介護方針及び介護方法がさらに展開されていくことを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、自治会に加入し、地域の行事に参加するだけでなく、毎年、地域の方をホームに招いて、夏祭りを行い、地域住民の方と交流を深めている。	最近は入居者の高齢化・重度化により全員が参加することが困難になっているため、隣り合う市営団地内の敬老会や近隣の保育園児を招待し、季節のイベント等を一緒に楽しんでいる。	代表者は民生委員からの要請に基づき、自治会等で在宅介護者へ「介護について」の講演を行うなど、積極的に地域に貢献している。是非継続してもらいたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	掲示板を活用し、地域の方からの相談を受け付けている。また、自治会の役員として活動し、これまでの経験を通じて得た認知症の人の理解や支援の方法などを、地区社協や自治会から依頼された講演会などを通じて、地域の方々に向けて、広めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、民生委員、地域住民、地域包括支援センター、ご家族から出された意見を、積極的に取り入れ、日々のケアやサービスの向上に活かしている。	入居者・家族代表・自治会長・地域包括支援センター職員などが参加して、活動報告・入居者の状況その他の議題について二ヶ月に一回開催している。提案・意見等は日々のケアやサービス向上に反映される。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	二ヶ月に一度の運営推進会議において、代表者は、入居者の立場に立った意見を、包括支援センターの市町村担当者に伝えている。	包括支援センターの担当者が直近の市の関係者であり、最低二ヶ月に一度は事業所の状況を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関等の施錠はせず、代表者や全ての職員が、様々な行動障害の見られる入居者の方に対して、ご本人のペースにあわせた個別対応を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「虐待防止関連法」に関する研修に参加した職員を中心に施設内研修を実施し、全職員が理解を深めている。現在、玄関を含め施設内に施錠されている箇所はなく、身体拘束の事例も発生していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者等が研修に参加し、虐待防止関連法について学び、勉強会や連絡ノートやカンファレンスなどを通して、定期的に職員に伝えていくようにして、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	代表者及び管理者が十分に理解し、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時のみならず、必要に応じて、利用者やご家族が理解するまで、十分に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族と、日々のコミュニケーションを密にして、意見や要望を気軽に言える様な信頼関係を築いている。また、年一回の家族会や、運営推進会議などで、ご家族から出た意見等を、運営に反映させている。	ご家族の意見や希望は日々の面会時に、また、運営推進会議に参加のご家族からは会議の場で聞き取り、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月１回開催のカンファレンスだけでなく、それ以外でも、日頃から、職員と話をする機会を多く設けるようにし、意見や提案を聞くようにしている。	月一回開催されるカンファレンスで意見やアイデア・気づきを提案できる場を設定している。また、日頃から職員との意思の疎通を図り、信頼関係を構築し、意見やアイデア・気づきを聞き取り、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、個々の職員がやりがいを持って働けるように、個々の努力などを把握し、評価する事で、それぞれが向上心を持って働けるような環境整備に勤めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員一人ひとりの能力を把握し、その能力を伸ばせるように、内部研修のみならず、外部への研修の機会を設けている。また、働きながらのスキルアップを目指し、資格取得の支援に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、日頃から、同業者との交流を深め、ネットワーク作りを通じて、サービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接から、入居後も、ご本人のニーズをしっかりと把握して、ホームでの生活において、不安を軽減し、安心して暮らせるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接から、入居後も、面会や電話連絡などをこまめに行い、ご家族とのコミュニケーションも図りながら、信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前から入居後も、ご本人とご家族が、その時に必要なサービスを見極め、受けられるように、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、介護する立場でなく、常に、介護される入居者の立場にたち、ご本人のペースに合わせて、共に暮らせるような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、面会や行事などを通じて、ご家族とのコミュニケーションも深め、ご本人がこれまで築いてきたご家族のとの関係も大切にしながら、共にご本人を支えていけるような関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室には、馴染みの家具や品物などを置いたり、写真を飾るなどして、関係が途切れないような環境を作っている。また、ご家族やご友人が、いつでも気軽に面会に来られるような環境作りにも努めている。	事業所は事前に入居者の必要なサービスを見極め、職員は常に介護される入居者の立場で支援している。また、面会や行事などを通じて、ご家族とのコミュニケーションを深め、関係者と共に支える環境作りに努めている。	ご家族へのアンケート調査の結果からは、“気軽に訪ねて行きやすい”、“本人は満足していると思う”、“家族も大変満足”など、何れも二年前の調査よりポイントがアップしている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のトラブルもあるが、職員が早めに間に入る事で、大きなトラブルを防ぎ、互いが支えあえるような関係を築いていけるように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時の他のサービスの紹介や、退所後も必要に応じて、介護やその他の相談に応じている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活歴などを把握し、日々のコミュニケーションを図りながら、ご本人の思いや希望を尊重した生活を送れるように努めている。困難な場合においても、出来る限り、その思いを尊重できるように、ご家族からも充分に話を聞きながら対応している。	入居者の高齢化・重度化により把握しにくい状況ではあるが、日々の関わりの中で本人の思いや喜んでいただける事柄、発見した事柄などを本人の生活に活かしている。また、ご家族と相談しながら情報を得る等、一人ひとりの思いや希望に即した生活を過ごすことが出切るよう務めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から入居後も、ご本人のみならず、ご家族からも話を聞きながら、これまでの生活歴や暮らしなどの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、一人ひとり、細やかな観察を行い、記録に残す事で、職員間で情報を共有し、一人ひとりの現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員が、毎月、入居者の状況や問題点などをまとめ、カンファレンスで、皆で検討している。また、検討した結果を、ご家族に毎月、送る事で、ご家族の意見や要望を取り入れ、ケアプランを作成している。	月一回全職員が参加して開催されるカンファレンスで、入居者の状況・問題点・課題が提起される。検討の結果、対応策・介護方法等が決められケアプランが作成される。さらに、この場で提起・検討・採択された事柄は個別の一覧表となって家族に報告される。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ずつに一日一枚、食事や水分量、排泄パターンや、生活の様子などを記録し、職員間で情報を共有しながら、日々のケアやケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて、ご本人やご家族の希望を聞きながら、柔軟な対応を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが、安全で豊かな生活を送れるように、それぞれの地域資源を活用していけるよう、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望されるかかりつけ医があれば、連携を図り、職員も同行し、受診を支援している。また、定期的な往診だけでなく、何かあればいつでも適切な医療を受けられるように主治医との連携を図っている。	入居前からのかかりつけ医を継続している入居者もいるが、ほとんどはホームの嘱託医がかかりつけ医となっている。受診時は職員が付き添い緊急時も同様である。主治医とは常に連携を図り、適切な医療が受けられるよう配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日々の観察において気付いた事は、些細な事でも、看護職員に伝え、入居者が適切な受診等を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際には、本人への負担を考えて、安心して治療を受けられ、また早期に退院できるよう、病院との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より、希望があれば、ターミナルケアを行っていることを説明し、その時の状況に応じながら、その都度、ご家族と相談しながら、本人の意思を尊重したケア行っている。	入居時にターミナルケアについて説明し、その後は状況に応じて、家族・主治医と相談しながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会などを通して、急変や事故発生時に備えて訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内で、定期的な避難訓練などを実施している。また、地域の訓練に参加したり、地域の方にもホームの訓練に参加して頂くようにしている。	事業所の年二回（春・秋）の避難訓練には地域の方の参加がある。さらに、地域の避難訓練に参加し協力体制を築いている。	万一の避難の際には近隣の協力は必要不可欠の力であり、日頃から協力関係が構築出来ていることは、とても心強い。是非、現在の関係を継続することを期待する。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのペースに合わせ、その人らしさを大切にして、過ごすことができるような対応をしている。	代表者が最重視している項目の一つで、常に職員に思いを伝え指導している。職員は日々のケアで、「言葉遣いに配慮する、笑顔で落ち着いて、一日一回は笑っていただく」等、一人ひとりが目標をもって対応することを心がけている。	全職員が入居者一人ひとりを尊重し、「心に花を咲かせてもらう」ために取り組んでいる。ぜひこの姿勢を貫いてほしい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症が進んでも、出来る限り、ご本人の思いや意思を尊重して過ごせるように、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合や業務でなく、入居者の方を最優先にして、それぞれのペースに合わせ、ご本人が希望される生活を送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みに合わせた服装やおしゃれが出来るように、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	認知症が進み、調理の手伝いは難しいが、それぞれの出来ることを見極め、職員と共に、食事の準備や片づけを行っている。また、ただ食事を提供するだけでなく、見た目や品数を多くし、食事を楽しめるように工夫をしている。	入居者の高齢化・重度化がすすみ、調理の手伝いが困難になってきた入居者も多いが、できる方は下拵えや食事の準備・後片付け等を手伝っている。食事は調理専門の職員が品数豊富で彩り良く調理し、入居者に食事への喜びを感じてもらうことが出来るよう提供される。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	充分な栄養が取れるように、それぞれの好みや状態に合わせた内容や形態を工夫し、時間にとらわれずに摂取して頂くことで、一日を通じて充分な栄養と水分が摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、それぞれに合わせた方法で、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の様子観察の中で、一人ひとりの排泄パターンを把握し、その前後の様子や習慣から、出来る限り、トイレでの排泄が出来るように、それぞれに合わせた支援を行っている。	排泄は全て記録され、さらに日々の様子観察を怠らず、一人ひとりの排泄パターンが把握されている。日中は個々の排泄のサインを見逃さず、出来る限りトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には、排便を促す飲食物を提供するだけでなく、散歩や体操など、身体を動かすように、それぞれに応じた対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決めてはいるが、ご本人の希望に応じて対応している。また、一人ひとり、浴槽の清掃を行い、湯を入れ替えることで、感染症を防ぐと共に、入浴を楽しめるようにしている。	入浴は週三回を基本としているが希望すればいつでも入れる。機械浴の設備も整えられ、重度の入居者にも何時でも入浴対応ができる。また、一人が入浴する都度、浴槽を清掃し湯を入れ替え一番風呂を楽しんでもらうと共に、感染症の予防に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握し、それぞれのその時々の状況に合わせ、休息したり、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用している薬について、勉強会や資料などを通じて、職員が理解できるように支援している。また、症状に合わせて服薬できるように、日々の変化の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの趣味やこれまでの生活を活かし、ホームでの暮らしを楽しみ、また役割を持って、張り合いのある生活を送れるように、それぞれに合わせた支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃から、行きたい所や食べたい物などを聞くようにし、それぞれの希望に沿って、外食などに出掛けている。コミュニケーションが困難な方でも、ご本人の好みなどに合わせて、外出する機会を設けるようにしている。	入居者の希望には出来るだけ沿うよう意識して取り組んでいる。重度で訴えることが出来ない場合でも、過去の生活暦や嗜好を把握して出掛けるようにしている。また、希望者が一人二人でも職員がボランティアでファミレスに出かけることもある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	それぞれの希望に応じ、買い物に行き、好きな物を買って、お金を使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、その都度、対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの場所が、入居者の方にとって、落ち着く場所であるように、様々な面で配慮した環境作りを行っている。	共有スペースは、適切な温度・湿度が保たれ、緑豊かな外の景色も広がっている。トイレ・浴室・廊下は広く、車椅子利用者もスムーズに利用することが出来る。一人で居室にいるのは寂しいと、ほとんどの入居者が他の仲間や職員と歓談や歌を楽しみながら、共有空間で過ごしている。	介護・介助の職員の他に、短時間勤務の調理・入浴・清掃の専門職員が配置され、入居者が一人ぽっちで過ごす場面がないよう、手厚い職員配置がなされている。ホームの負担は大きいと思うが是非続けられるよう願う。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの自席だけでなく、ソファーなどで、仲間と過ごしたり、時には、一人で過ごす時間を持てるように、工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、これまで使い慣れた物や、ご本人の好みのものを持ち込んで頂き、ご本人にとって、今までに近い環境で、居心地よく、過ごせるように、工夫している。	ゆったりとした居室には、入居前に使用されていた馴染みの家具や小物があり、入居前と変わらない環境で過ごすことが出来るよう配慮されている。また、馴染みの物を持参できなかった入居者にはホームから提供されることもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内は、それぞれの身体機能や残存能力を活かして、出来る限り、自立した生活ができるように、工夫している。		